

## 祈りの原則 ⑤

ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。(ヘブル4:16)

これは、信者が天の父に祈っているときの霊的現実です。単なる絵画的な表現ではなく、霊の世界で現実に行き起こっていることです。祈りによって、信者は神に近づき、神から助けと祝福を受け取り、霊的に成長します。

2019年9月から、祈りについて、聖書はどのように教えているのか、学んでいます。

□祈りに関する学び全体のテーマ

1. 祈りの原則
2. 祈りの3つのタイプ
3. 旧約聖書の中の祈り
4. 新約聖書の中の祈り
5. 祈りの条件
6. 祈りの構成と内容
7. 祈りのルール
8. 祈りの諸問題

□「祈りの原則」のアウトライン

1. 祈りとは
2. 祈りを象徴するもの
3. 祈る理由と目的
4. 祈りのすすめ
5. 祈りの約束
6. 祈りのアウトライン
7. 祈る場所
8. 祈る時
9. 祈るときの姿勢
10. 祈りの力と結果

## □祈る場所

聖書は、祈る場所について特別な場所を定めてはいない。ただし、他の人の目やいろいろな動きから遮断された環境を要するとしている。

### 1. 祈りの場所について教える聖書箇所

(1) マタイ 6:6

(2) この箇所から導かれる原則：祈りの場所については、遮断（または隔離）の原則

### 2. 聖書は祈りの場所について、いろいろな場所を記録している

(1) ダニ 6:10 自宅

(2) マタ 6:6 奥まった部屋

(3) マタ 14:23 山

(4) マコ 1:35 荒野

(5) 使徒 12:5、12 ある人の家に集まって祈る

(6) 使徒 16:13 川岸

(7) 使徒 21:5 浜辺

(8) 1テモ 2:8 どこでも

### 3. 結論

(1) 祈るための場所として特に指定された場所はない。聖書が信者に勧めているのは、いつでも祈るという気持ちでいるように。したがって祈る場所についても、どこにいても、ということになる。

(2) 実際に、私たちはどこにしようとも、祈ることができる。屋外にいても、家の中でも、飛行機に乗っていても、列車に乗っていても、街の通りを歩いていても、である。条件は、ただひとつ、私たちの内面が、人の目やいろいろな動きから影響されず、祈りに向かうことができることである。

## □祈る時

前節では、祈る場所は特定されないと学んだ。では、祈る時についてはどうか。祈る時として、特にふさわしい時というのが、あるのか？

## 1. 聖書の原則：いろいろな時

- (1) 詩 55 : 17 夕方、朝、そして真昼
- (2) ダニ 6 : 10 日に3回
- (3) 1テモ 5 : 5 夜も昼も
- (4) ルカ 18 : 1 いつでも祈る
- (5) 「静思の時」について

① 「信者は、毎朝、静思の時を持つべきである」という主張は行き過ぎ。聖書は「毎朝」という指定はしていない。夕方でも、昼間でも、静まって祈ることはできる。

② 神は、私たちに、1日のうちにどこかで祈りの時をもつように望んでおられることは確かである。私たちはいつでも祈るという気持ちでいると同時に、1日の中のある時点において、祈る時を持つべきである。その時を早朝にするのか、夜にするのか、それとも昼にするのか、それは各個人に委ねられている。

## 2. 朝の祈り

- (1) 詩 5 : 3
- (2) 詩 88 : 13
- (3) マルコ 1 : 35

## 3. 夕・夜の祈り

- (1) 詩 141 : 2、5
- (2) マタイ 14 : 23
- (3) マタイ 26 : 36~44
- (4) ルカ 6 : 12 夜通し

## 4. 昼間の祈り

- (1) 使徒 3 : 1、10 : 30 「午後3時の祈り」
- (2) 使徒 10 : 9 「午後12時ごろ」
- (3) これは当時の習慣。一日の中でどの時点で祈りの時をもつか、決まりはない。

## 5. 危険や苦難に遭遇したときの祈り

- (1) I歴 5 : 20 戦いの最中に祈った (類例 II歴 13 : 13~16、20 : 1~22)
- (2) 詩 50 : 15、77 : 1~2、86 : 7、130 : 1
- (3) ヨナ 2 : 1~9
- (4) ルカ 22 : 39~46 ゲッセマネの園での苦悶の時の祈り

## 6. 食事の前の感謝の祈り

(1) マタ 14 : 19

(2) 使徒 27 : 35

(3) I テモ 4 : 4~5 すべての食べ物は感謝をもって受ける。私たちが食べるものは何でも、祈りによって清められる。(1~3、特定の食物を禁じる、誤った教えに注意)

## 7. 多忙の中での祈り

(1) ルカ 5 : 15~16

時間に余裕のある中で、祈りの時をもつことは容易である。しかし、忙しいときこそ、数秒でも時間を割いて、天の父に感謝をささげ、祈り、励ましを求め、仕事を成す力を与えてくださるよう、祈ることが大切である。祈らないことを、多忙のせいにしてはならない。

## 8. 祈りは、継続的なものである

(1) ルカ 18 : 1 「いつでも祈る」

(2) エペソ 6 : 18 「どんなときにも・・・絶えず目をさまして」

(3) I テサ 5 : 17 「絶えず祈りなさい」

祈りはいつするのか、実は、この問いかけは祈りの本質を見失わせるおそれがある。祈りは継続的なものである。信者は、いつでも祈る、喜んで祈るという状態であるべきである。そうすると、祈りが24時間365日、途切れることなく持続しているかのように感じるようになる。

## □祈る姿勢

祈る場所や時がさまざまであったように、祈る姿勢についても、さまざまである。聖書には、9つの姿勢に関する記述が見られる。

## 1. まっすぐに立って祈る

(1) マルコ 11 : 25 「立って祈っているとき」(2) ルカ 18 : 10~13 「ふたりの人が、祈るために宮に上った。・・・パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。・・・取税人は遠く離れて立ち」

(3) ヨハネ 14 : 31 「立ちなさい。さあ、ここから行くのです。」→17 : 1 「イエスは、これらのことを話してから、目を天に向けて、言われた(天の父への祈りが続く)」→18 : 1 「イエスはこれらのことを話し終えられると、弟子たちとともに、ケドエロンの川筋の向こう側に出て行かれた。そこに園があって、イエスは弟子たちといっしょに、そこに入られた」

過越の食事の場所から出て、ゲッセマネの園まで歩いて移動する途中で、歩きながらイエスが弟子たちに語った。そして17 : 1では、イエスは歩みを止めて、立

ったままで、天に目を向けて、天の父なる神に向かって祈った。

## 2. ひざまずいて祈る

- (1) I列8:54「こうして、ソロモンは、この祈りと願いをことごとく主にささげ終わった。彼はそれまで、ひざまずいて、両手を天に差し伸ばしていた・・・」
- (2) ルカ22:41「そしてご自分は、弟子たちから石を投げて届くほどの所に離れて、ひざまずいて、こう祈られた」
- (3) 使徒20:36「こう言い終わって、パウロはひざまずき、みなの方とともに祈った」
- (4) エペソ3:14「こういうわけで、私はひざをかがめて、・・・父の前に祈ります」

## 3. うつ伏せで祈る

- (1) マタイ26:39「それからイエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた」この姿勢では、額は地面についている。体は、完全にうつ伏せに寝ている状態か、または、ひざまずいた姿勢から上半身だけを伏させて額を地面につけている状態である。聖書箇所ではあまり他には類例を見ないが、これもまた、祈る姿勢として問題ない。

## 4. 体を寝かせて祈る（寝たままで祈る）

- (1) II列20:1~2「ヒゼキヤは病気になって死にかかっていた。・・・そこでヒゼキヤは顔を壁に向けて、主に祈って、言った」
- (2) 詩63:6「ああ、私は床の上であなたを思い出し、夜ふけて私はあなたを思います」

## 5. 座って祈る

- (1) I列18:42（原文直訳）「エリヤはカルメル山の頂上に登った。そして彼は、地面の上にひれ伏した（ガウハル 横たわる、寝そべる、祈りなどでひれ伏す）。そして、彼は、自分の顔をひざの間にうずめた」・・・エリヤは、カルメル山の頂上に登り、そこで祈りの姿勢をとった。まず地面の上にひれ伏した。次に地面の上にひざを抱えてしゃがみこみ、立てたひざの間に顔をうずめた。

## 6. 十字架にかかりながら祈る

- (1) ルカ23:42

適用・・・私たちが、もし極限の状況の中に置かれたとして、そのとき、自分が意図しない姿勢を余儀なくされるかもしれない。しかし、祈る姿勢に条件はない。犯罪人のひとりが十字架の上で祈ったように、私たちも祈ることができる。

## 7. 水の上を歩きながら祈る

- (1) マタイ14:30

適用・・・私たちが水の上を歩くことは、まずないであろう。しかし、この箇所からわかるのは、どんな姿勢をとっていても、そしてわずか一言だけであっても、祈りは成立する、ということである。

## 8. 頭を垂れて祈る

- (1) 創24:26「その人はひざまずきカウダッド（敬意を表して体または頭を傾けて

お辞儀をする)」

(2) 出 4 : 31 「民は信じた。彼らは・・・ひざまずいて、礼拝した」

(3) 出 12 : 27 「すると民はひざまずいて、礼拝した。」

9. 目を閉じて、または、目を開けて祈る

(1) ヨハネ 11 : 41 「イエスは目を上げて、言われた」

(2) ヨハネ 17 : 1 「イエスは・・・目を天に向けて、言われた」

現代では、信者はほとんどの場合、目を閉じて祈るのが習慣となっている。しかし、上記のヨハネの福音書の箇所では、目を開けて祈っていることが明らかである。実は、聖書の中には、目を閉じて祈ったという記事は一つもない。

もちろん、目を閉じて祈ってはいけない、という教えはないので、目を閉じようが、開けようが、どちらでもよい。目を開けていると祈りに集中できないというなら、閉じればよい。人によっては、目を閉じると逆にいろいろな雑念が湧いてきてしまうということもある。

□祈りの力と結果

祈りが物事を成し遂げる。聖書の中から、祈りの力と結果についての箇所を6つ挙げる。

1. 出 32 章、金の子牛像を造って拝んだイスラエルの民は神によって滅ぼされそうになった。このとき、モーセのとりなしの祈りによってイスラエルの民は助かった。出 32 : 11~14
2. 預言者サムエルの人生は、祈りの人生である。その祈りによって、ペリシテ人の侵攻を食い止めた。 I サム 7 : 5~14
3. 預言者エリヤは、祈りによって雨をもたらし、干ばつを終わらせた。I 列 18 : 41~45。新約聖書のヤコブの手紙がこのことを引用している (ヤコブ 5 : 17~18) のは、義人の祈りは働くと大きな力があるのだから (5 : 16)、私たち信者を励まして祈らせるためである。義人とは、信仰によって義人と認められた信者たちである。
4. 祈りは、神がそのみこころを行うときに用いる手段である (I ヨハネ 5 : 14~15)。神はそのみこころを信者抜きで遂行することはなさない。信者が祈ること、これを通して神はご自身の目的と計画を実行される。
5. 祈りを、神は聞いてくださる。そして何かの答えを与えてくださる (マルコ 11 : 24、ヨハネ 14 : 13~14)
6. 祈りは、神の栄光につながる。神は、私たちの祈りの生活によって、栄光をお受けになる (ヨハネ 14 : 13)